

◆実践問題43◆

1回目

2回目

3回目

4回目

5回目

(宮中に仕える小督という女房には、冷泉少将という恋人がいた。しかし小督は帝に召されてしま
う。)

小督殿、「われ君に召されむうへは、少将いかに

いふとも、言葉をもかはし文を見るべきにもあら

ず」とて、つてのなさをたにもかけられず。少将

もしやと一首の和歌を詠うで、小督殿のおはしけ

る御簾の内へ投げいれたる。

みちのく

思ひかね心はそらにみちのくの

満ち

千賀の塩釜近きかひなし

小督殿 やがて返事もせはやと思はれけめども、

君の御ため御うしろめたうや思はれけむ、手にた

に取ッても見給はず。上童に取らせて坪のうちへ

ぞ投げ出だす。少将なさけなう恨めしけれども

人もこそ見れとそら恐ろしう思はれければ、急ぎ

これを取ッてふところに入れてぞ出でられける。

なほたち帰ッて

たまづさを今は手にだに取らじとやさこそ心

に思ひ捨つとも

今はこの世であひ見むこともかたければ、生きて

ものを思はむより、死なむとのみぞ願はれける。